

平成24年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

1 学校教育目標	(1) 信頼と愛情に基づく指導体制を確立して、ほほえみと感動のある学校教育を推進する。 (2) 生徒一人一人の目的意識の確立と高揚を図りつつ、他を思いやる人間性豊かな生徒の育成に努める。 (3) 新しい技術に対応でき、たくましく「生きる力」を身につけた工業技術者の育成を図る。
2 現状の分析	○基本的生活習慣の充実を目標に、遅刻防止指導に力を入れている。「遅刻0週間から、遅刻0習慣へ」のスローガンで取り組み、遅刻者数は極めて少ない。 ○キャリア教育を重視し、学校活動全般で位置づけた指導を展開している。毎年進路実現100%を達成している。 ▲生徒達は問題行動も少なく落ち着いた雰囲気にあるが、コミュニケーション能力や判断力・行動力の低下が懸念される。 ▲入学時の学力差が大きく、クラス内・学科間においての実態把握と、きめ細かな指導が必要となっている。
3 学校の抱える課題	・基礎的、基本的な学力の習得および専門教科の学習指導法の研修。 ・実践的な工業技術者の育成を目指すため、社会に通用するコミュニケーション能力の向上。 ・保護者への情報提供と、地域や中学生とその保護者に対する広報活動の強化。 ・社会の一員として、挨拶や身だしなみ、交通安全マナー意識の向上の具体的、継続的な指導。
4 今年度の具体的な重点目標	1. 基礎基本の定着と、主体的な学習態度の育成を目指し具体的で継続的な学習指導の研鑽。 2. 共感的な生徒理解に徹し、自己指導能力を育むとともに、一人一人に目的意識と自己充実感をもたせる。 3. 自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育成するキャリア教育の充実。 4. 「ものづくり」「資格取得」等を通して、主体的に学ぶ意欲と態度を養い、自ら生きる力を育むための支援をする。

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教育課程 学習指導	①基礎基本の定着を徹底する ②授業改善を目的に研修を充実 ③進学対応できる課程の研究	①学業不振科目の減少 ②生徒アンケートの分析 ③教育課程の完成	①基礎学力診断テストの分析 ②公開授業週間や職員研修の開催 ③H26年度2学年からの実施決定	B B A	○進学対応の教育課程編成 ▲基礎学力定着に向けた診断ツールの効果的な活用	A B C D
キャリア教育 進路指導	①進路ガイダンス機能の充実 ②インターンシップ体験の充実 ③主体的な進路選択意識の醸成	①就職希望者全員の内定確保 ②就業ノート等の分析 ③就職進学活動の積極性	①外部講師の協力を得て5回以上実施 ②事前事後の指導を充実を図る ③進路選択に明確な目標を持たせる	A B B	○各種ガイダンスや体験が 進路意識の高揚に繋がった ▲生徒間でその差が大きい	
生活指導 コミュニケーション能力 の育成	①多様な生徒に対応できる、指導 法の研修と実践 ②基本的な社会マナーの定着	①個人のスキルアップと組織 としての指導力の向上 ②外部からの評価	①問題行動の減少と退学者の減少 ②各種イベントへの積極的な参加	B A	○多様な生徒理解に対し、 意識の向上が図られた。 ▲効果的な情報の共有化	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成25年2月13日

・可児工業高校の魅力をもっと広報する必要がある。複数のイベントにも参加しているようだが、その際学校のPRブースを設けるなど工夫してはどうか。
・実習などの授業では生徒の積極的な姿勢が伝わってきた。教室での授業はもう一步の様子が見られるので、生徒を引きつける授業工夫を期待したい。
・保護者との連携をさらに深め、家庭と一体になった応援をしていくために、情報提供の機会を増やし、理解と協力を得ることを大切である。

12 来年度に向けての改善方策案

・キャリア教育の充実を図るため、今までの取り組みを検証し改善を図る。
・多様な生徒対応のため、教育相談体制の充実を図り援助体制を強化する。
・魅力ある授業を目指し、指導法の工夫や授業改善に向け職員研修を充実させる。
・全職員の共通理解を基本とした、機能性のある生徒指導体制を研究する。